

徳島で医療や介護の施設をコンピュータネットワークで繋ぎ、皆さんの情報を共有する「阿波あいネット」が始まりました。情報共有することで施設の連携が密になり、より良い医療や介護に繋がります。これまでに約1万7000人が情報共有に参加同意しています。



徳島大学病院病院情報センター

玉木 悠 特任助教

一口に「医療や介護の施設」と言っても、大学病院のような高度な治療を提供する病院、救急病院や専門病院、かかりつけの診療所、薬局など様々な医療施設があります。また、介護もヘルパーが訪問する「訪問サービス」、介護施設に通う「通所サービス」、老人ホームなどへ入居する「施設サービス」など様々な種類があり、役割が分かれています。役割の異なる施設が連携することで、身体の状態や生活環境などに合わせたサービスを提供しています。

効果的な連携に必要なのが、「担当している患者さんや利用

者さんの情報を共有することです。複数施設が協力して一人の方の治療や介護に当たっていますから、その方の過去の病歴、現在の状態や治療方針、生活環境などの情報を共有することが大変重要です。

患者情報 医療・介護施設がネットで共有

従来、情報共有は「紙」で行われてきました。皆さんも「紹介状」と呼ばれる書類を渡され、持参したところがあると思います。しかし、紙の情報共有では限界に近づいています。医療は日進月歩で、検査や治療は日々進歩しています。それに伴い、検査結果や記録などの情報も爆発的に増えているのです。また、介護は高齢化で利用者自体がどんどん増えています。

そのため、近年では情報通信技術（ICT）を活用して、医療や介護の施設間をネットワークで繋ぎ、コンピュータを使って情報を素早く効率的に共有する仕組みが広がってきています。

阿波あいネットでは参加同意について地域住民の皆さんに案内しています。「阿波あいネット」でウェブサイト (<http://alltkse-hr.localinfo.jp/>) を検索してみてください。他の都道府県でも、同様のネットワークが始まっています。この機会にぜひ、参加下さい。